

# ハッピー通信



2025年2月11日発行  
25-07号

現場から（最近のニュースから）

## 見えていないこと

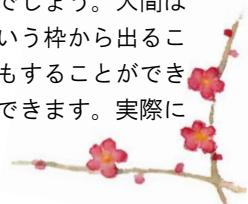


私たちは、自分が見ていること、聞いていること、感じていることで考えて判断をしています。ところで、自分が見たり聞いたり感じたりしていることがほんとうに事実なのでしょうか。

「見えないゴリラ (The Invisible Gorilla)」という心理実験について紹介している記事がありました。その実験は、アメリカの心理学者であるダニエル・シモンズとクリストファー・チャブリスによって行われたものです。実験の手順は、まず被験者に対して「これから白い服を着たチームと黒い服を着たチームがそれぞれバスケットボールのバス回しをしている映像を見せるので、その中で白服チームが何回ボールをバスしたか答えてください」と指示して、白服チームと黒服チームが入り乱れながらバスを回す映像を見せるそうです。かなり集中していないと、白服チームが何回バスしているか見逃しそうになるような映像です。それを見て、白服チームのボールを目で追い、「1回、2回、3回…」と数え、映像が終わったときに被験者が「正解は15回だ！」と自信満々に答えたところで、研究者が「ゴリラに気付きましたか？」と尋ねるそうです。実際の映像を見ると、人間がゴリラの着ぐるみを着て、堂々と真ん中を通り過ぎているのでした。しかし、ゴリラなどまったく頭になく、ただただ「白服チームが何回バスしているか」に集中して映像を見始めた人は意外とゴリラが見えなかったということです。実際にこの実験では、被験者の2人に1人（約50%）はゴリラが横切っていったことに気づかなかったということです。研究主任のシモンズとチャブリスは「ゴリラが見えなくなったのは非注意性盲目 (inattentional blindness) が働いたからだ」と説明しているということです。非注意性盲目とは、視野に入っているにも関わらず、注意が向かっていないために見落としてしまう現象だそうです。

人間は周りの世界を「目」で見ているというよりも「脳」で見ています。脳は目から雪崩れのように入ってくる視覚情報をすべて処理することはできません。そこで今自分に必要なもの、見るべき対象を「注意」によって選び出し、その視覚情報を脳に送って、それ以外は背景として意識から排除するようになっているということです。白服チームが何回バス回しをするか数えるタスクを与えられていた人々は、「白服チーム」だけに注意を絞り、それ以外の「黒服チーム」は意識から完全に排除してしまっていたので、黒いゴリラに気づかなかったのです。色を反対にして「黒服チーム」のバスの回数を数えるように指示した人や、単に映像を見てくださいと言った人は、ゴリラの存在がわかったということです。ゴリラが見えなくなったのは、自らの注意を白服チームにのみ向けて、白色以外の一切を意識から排除した人だということです。（2月4日ナゾロジー＜目の前のゴリラに気づかない！不思議な心理現象「見えないゴリラ」とは？＞より）

脳は複数のことに集中することができないことは、いろいろな研究で明らかにされています。私たちが見ているのは、すべてではなく自分が選択している部分だけだということでしょう。人間はそのように「自分」を中心にして生きています。その事実に気づいても、自分という枠から出ることは人間ではできません。実は、人間ではどうしても理解できない、まったく何もすることができない世界があります。その世界があると知ると、自分の枠から自由になることができます。実際に存在している大きな不思議な世界について、いっしょに見てみませんか。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれています。隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち碎いて勝利なさいました(ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」